

わが

魅力の架け橋 高原湖畔都市 〜シゼンとヒトがつながる、すわ。〜

標高759m、「日本のおへそ」

とも言われる諏訪湖のほとりに位置します諏訪市は、「東洋のスイス」と言われた時代に培った精密技術を、今では超微細加工、電子デバイス、IT関連などに進展し、ものづくりの伝統と多様な最先端技術の集積地として存在感を増してきています。また、諏訪大社、高島城、上諏訪温泉など悠久の歴史や文化に彩られ、五酒蔵の呑みあるきや、八ヶ岳、富士山、アルプス連峰など、360度のパノラマを望む広大な霧ヶ峰高原と、湖周も湖上も、各種アクティビティが楽しめる「高原湖畔都市」です。

本市は令和3年、市制施行80周年を契機に、この「シゼンとヒトがつながる、すわ。」をキャッチコピーとして、令和4年度をスター



諏訪市PR用ロゴマーク・キャッチコピー

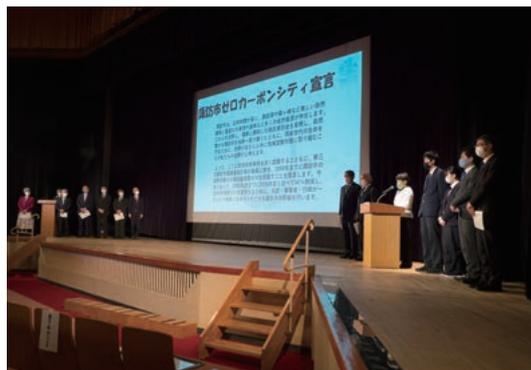
トとする「第六次諏訪市総合計画」を策定しました。自然と人の営みが輪のようにつながり、その循環の中でどの人も安心して暮らすことができるよう、実現すべき六つの重点目標を定めて、その実現に向けて動き始めています。諏訪湖の波、一望する山々、動植物も含めた暮らし、全てが一本の線につながったデザインで、豊かさとしさ、爽快な都市をイメージしたロゴマークもできました。全ての施策をSDGsに関連付けたこの

計画に沿って、地域ブランド価値の向上、充実したしごと創出、気持ちいい心地いいまちづくり、新たな時代への対応など、実現に向かって取り組んでまいります。

日本の屋根から環境への貢献

現在、長野県と諏訪湖を囲む3市町が連携し、令和5年度の完成を目指して湖周16kmのサイクリングロードを建設しています。本年6月25日には「スワコエイトピークス・ミドル・トライアスロン大会」（全100km）が、諏訪地域を舞台に開催される予定です。諏訪湖を泳ぎ、八ヶ岳山麓までをバイクで走るアスリートの白熱した大会を期待しています。

諏訪湖の水をきれいにすることがは湖周住民の悲願でありました。



諏訪市は、ゼロカーボンシティを宣言しました

こうした水泳を含む競技ができるようになったことは、多くの皆さんの協力と努力のたまものです。そして、この湖の水は天竜川を経て大海原の太平洋へ注ぎます。海なし県である長野県も、マイクロプラスチックによる海洋汚染と無関係ではありません。その責任を意識し、日本の屋根、信州の高原湖畔都市から環境保全を発信してまいります。本市は本年3月に、市民、事業者、諸団体の皆さまと共に、2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す「諏



諏訪市の未来の可能性

「SUWAらしい」があふれる観光地」とし、諏訪湖や霧ヶ峰などの自然環境を生かした取り組みや、諏訪湖イベント

「SUWAらしい」があふれる観光地」とし、諏訪湖や霧ヶ峰などの自然環境を生かした取り組みや、諏訪湖イベントや「ビジネス創出」が評価され、



諏訪市長
金子ゆかり



〔将来都市像〕魅力の架け橋 高原湖畔都市「シゼン」とヒトがつながる、すわ。」

〔まちの特徴〕諏訪湖や霧ヶ峰高原、上諏訪温泉などの天与の自然資源や、諏訪大社、高島城をはじめとする歴史や伝統文化遺産に恵まれた観光都市であるとともに、進取の気質のものづく

〔イベント〕諏訪湖の花火、高島城祭、諏訪よいてこ(まつり)、諏訪圏工業メッセ、諏訪湖マラソン大会、まちあそび呑みあそび、諏訪湖DEウォーク

〔特産品〕地酒、信州味噌、マルメロ(かりん)、ワカサギ、ウナギ、信州そば、寒天、上野大根、鉄平石、精密機械工業

〔観光〕諏訪大社(上社本宮)、諏訪湖、霧ヶ峰、上諏訪温泉、諏訪高島城、諏訪五蔵

「SUWAらしい」があふれる観光地へ

訪市ゼロカーボンシティ宣言」を行いました。

自然と共存共栄する持続可能な社会の実現に向け、再生可能エネルギーを活用した公共施設への中熱冷暖房設備の導入や、温泉熱発電システムの実証実験など、地域の特性を踏まえた取り組みを官民連携で進めています。その可能性をさらに広げ、エネルギー先進都市を目指してまいります。

年間約600万人の観光客が訪れる本市では、観光による地域活性化を目指して観光素材や原石を磨き上げ、観光の新たな可能性を見える化するために「諏訪市観光ランドデザイン」を作成しました。基本理念を「SUWAらしい」があふれる観光地」とし、諏訪湖や霧ヶ峰などの自然環境を生かした取り組みや、諏訪湖イベント

トひろばを活用した産業観光の活性化などの四つのビジョンを展開しています。このランドデザインを基に、行政や観光関係者だけでなく、市民の皆さまと力を合わせて、本市を訪れ、また地域に関わる全ての人が幸せを感じられる「SUWAらしい」があふれる観光地を実現してまいります。

先端技術の集積

(SUWAプレミアム)と

観光産業や新しい働き方

(ワーケーション)

諏訪地方は、明治のシルク産業から戦後の精密など製造業が盛んな土地柄であり、中小零細といえども、グローバルニッチトップ企業もたくさん存在しています。先端技術を持つ精密機器産業の集積地である強みを生かし、そこに新たな作り手であるクリエイターやデザイナーなど多様な職種の人々が連携することで、高品質高性能があふれる「MADE IN SUWA」の逸品を創出する地域ブランド「SUWAプレミアム」の活動が成果を上げており、その「事業性」や「ビジネス創出」が評価され、

令和3年度、第14回産業観光まちづくり大賞において経済産業大臣賞を受賞しました。

また、コロナ禍において急速に進展したDX、リモート会議など新しい取り組みや働き方への可能性を見据え、本市の特徴である産業と観光に注目し、「ワーケーション」への取り組みを進めており、令和3年度には、首都圏に所在する企業などを対象にモニター

ツアーを実施しました。これからも、この地に引き継がれる優れた特性をさらに磨きながら、輝く魅力を未来へつなぐ架け橋になれるよう、人が集い、育ち、心安らぐ高原湖畔都市を目指しつつ、どの人も生きがいを持ちながら、地方に暮らす幸せを実感できる、そんなまちづくりを、市民の皆さまと力を合わせて、さらに進めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 109.17km²
- ◆ 人口 4万8488人
- ◆ 世帯数 2万2228世帯

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「ここちよい暮らしがかなうまち

鶴ヶ島市は、埼玉県のほぼ中央に位置し、都心から45km圏内というアクセスの良さと自然災害の少なさから、住むまちとして発展を続けてきました。池袋駅から40分の好立地に快適な居住空間が整備され、便利な商業施設がそろう一方で、豊かな緑が残り、心地よい

暮らしが実現できると思っています。傍ら、休日にはこうした景色を全身に感じ、環境の整った市民農園で緑と土に触れ、心地よい汗を流す。都市と自然とが調和した本市だからこそ、便利さと心の豊かさの「いいとこどり」を実感していただけると思っています。

地域の絆を今に伝える

暮らしが実現できると思っています。例えば、高倉地区の「菜の花」とこいのぼりは、澄み渡る青空、見渡す限りの菜の花と、大小多くのこいのぼりが色鮮やかな、本市自慢の美しい風景です。都心勤務の

本市に今も伝わる脚折雨乞すねおりあまこいは、地域住民のシンボルであり、江戸時代に端を発する降雨祈願の伝統行事です。竹と麦わらで作られた全長約36m、重さ約3tの龍神を300人もの男衆が担ぎ、池の中心で勇壮に動き回る様は、まさに圧巻です。専業農家の減少などにより、昭和39年を最後に一度途絶えてしまいましたが、この行事の持つ地域の一体感の大切さを再認識した地元住民が「脚折雨乞」行事保



地域をつなぐ大迫力の伝統行事「脚折雨乞」

存会」を結成し、昭和51年に復活しました。以来、4年に1度行われてきた脚折雨乞は、起源から数百年の時を経た今もなお、人々の絆を深めてくれています。

市制施行30周年

未来への新たな一歩を

本市は、令和3年9月に市制施

行30周年を迎え、この記念事業の一つとして「つるがしま未来の森づくり事業」を実施しました。同年4月にオープンした鶴ヶ島グリーンパークで実施した記念植樹には、地元の子どもたちやその保護者、環境団体などが集まりました。環境団体から手ほどきを受けながら苗木を植えた子どもたちには、植樹を通じて地域への愛着が芽生えると同時に、地球環境について考えるきっかけになったものと考えています。

本市では今後も、鶴ヶ島の未来



つるがしま未来の森づくり事業



こいのぼりと菜の花が色鮮やかな春の風景



〔仮称〕Nゲージとガーデンパーク 完成イメージ図

関水金属所有の機関車

〔仮〕Nゲージとガーデンパーク」イメージ

進めています。関水金属の新工場と、隣接する市所有の公園を一体的に整備して、人々の憩い・にぎわい・交流の創出を目指すプロジェクトです。関水金属は本市のふるさと納税のパートナー企業であり、同社の新工場建設を契機に包括連携協定を締結したこと

を担う子どもたちの夢と希望を大切に、「子どもにやさしいまちづくり」に取り組んでまいります。

官民連携による新たな交流拠点

現在、本市では、鉄道模型Nゲージで知られる(株)関水金属と、官民連携による取り組み「(仮)Nゲージとガーデンパーク構想」の実現に向けて準備を

から、官民連携のプロジェクトがスタートしました。新工場は、周囲に塀を設けない地域に開かれた「まちなか工場」で、敷地の一部を地域住民などに広く開放する予定です。また、工場を一周する形で線路を敷設し、イベントなどの際には、同社所有の機関車を走行させます。機関車は常時展示して、いつでも本物の機関車と触れ合えるよう計画しています。

隣接する公園は、植物が本来持つ自然な美しさを最大限に生かす、英国式のナチュラルガーデンとして再整備します。植物を地域住民と一緒に育て、地域に根差した「みんなの庭」となるような公園を目指す計画です。これにより、地域住民の生きがいや健康づくり、コミュニティの再生などの効果を生み出し、「いつまでも健康でいられるまちづくり」を進めたいと考えています。

官民の垣根を越えた一体的な取り組みにより地域の魅力を創出し、関係人口・交流人口の増加や地域経済の活性化を図り、工場の進出による新たな雇用も合わせて「多様な働き方が実現できるまちづくり」を推進してまいります。

20年後も選ばれるまちへ

新たな交流拠点(仮)Nゲージとガーデンパークは、東武東上線鶴ヶ島駅から徒歩圏内にあります。この立地に着目し、公園の整備の効果を最大限に高めるため、「鶴ヶ島駅周辺地区まちづくり構想」の策定に取り組みすることとしました。(仮)Nゲージとガーデンパークの整備を踏まえ、ソフト・ハード事業を効果的に組み合わせることで、鶴ヶ島駅周辺の商業地

プロフィール

- ◆ 面積 17・65km²
- ◆ 人口 6万9927人
- ◆ 世帯数 3万2584世帯

〔将来都市像〕しあわせ共感 安心のまち つるがしま

〔まちの特徴〕都心から近く、車・鉄道で多方面へアクセス良好。都市と農村どちらの良さも体感できるまち



鶴ヶ島市長 齊藤芳久



〔特産品〕狭山茶、サフラン
〔イベント〕脚折雨乞(4年に1度開催)、高倉獅子舞、桜まつり、高倉菜の花まつり、サマーカーニバル、産業まつり

域の集客力向上など、地域の大きな活力を創出するための構想です。この構想をきっかけとして、市内の全域に、そして市民一人一人に活力を届けていきたいと考えています。

本市の将来像「しあわせ共感安心のまち つるがしま」を市民の皆さんと共有し、20年後も選ばれるまちであり続けられるよう、これからの全力で市政運営に臨んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「人情味あふれる！笑いのたえないまち 門真」を目指して

門真市は、大阪府の北東部に位置し、大阪市に隣接し、府内でも有数の交通利便性に恵まれています。

これらの交通網は本市の暮らしや産業の発展に大きな役割を果たしており、パナソニックやタイガー魔法瓶をはじめ、数多くの企業が本市へ移転し、今日の本市製造業の礎を築きました。

このように、本市は大手電機メーカーの企業城下町として発展してきた背景から、卓越した技術を持つ中小企業が数多く立地しています。現在、そのような企業60社をカドマイスターとして認定し、広く情報を発信するなど、企業が躍進できるように支援しています。

密集市街地の形成と課題

高度経済成長期の急激な人口増

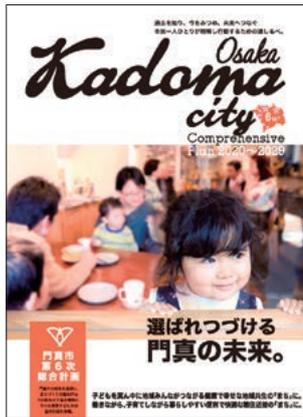
に伴い、まちの基盤となる道路などが整わないまま木造共同住宅が建設され、公園などの公共空間が少ない密集した市街地が形成されました。このことが、本市のさまざまな課題につながっています。

例えば、持ち家比率の低さや転入転出者の多さ、歩道がない危険な道路、空き家、生活保護受給率の高さ、国民健康保険加入率の高さなどが挙げられます。

子どもを真ん中に

そこで、本市第6次総合計画で

は、まちの将来像を「人情味あふれる！笑いのたえないまち 門真」とし、まちづくりの方向性を「子ど



雑誌風デザインのオシャレな総合計画

また、こども医療費助成を18歳まで拡充、保育所の待機児童解消、3歳以上の保育所等副食費無償化などを

もを真ん中に地域みんながつながる健康で幸せな地域共生の『まち』に「働きながら、子育てしながら暮らしやすい便利で快適な職住近接の『まち』」と決めました。

子育て・教育分野では、先駆的事業として支援を要する子ども・家庭の発見から支援の実施、見守りまでをトータルでサポートする子どもの未来応援ネットワーク事業を展開し、1400人を超える見守りボランティアの協力の下、支援につながっていない子ども・家庭にアウトリーチをかけています。



公民連携子どもの居場所「子どもLOBBY」

実施し、「子育てしやすいまち」を推進しています。それと並行して、学力向上への取り組みとして、教育ICT環境の整備、授業をより効率よく行うためにAIドリルの導入など学習環境の整備を進め、教育委員会と共に令和5年度の全国学力・学習状況調査で平均超えを目指しています。また、小中一貫校の施設整備をはじめ、学校適正配置を進めています。まちづくり分野については、密



密集市街地の解消



まちの価値を上げるエリアリノベーション

え、また、駅前「未来の風景」を仮想的につくり、エリアへの期待や価値を高めるきっかけをつくりながら、暮らしの場といった「地」の再生だけでなく、ものづくり産業などの「業」の再生を両輪で行うことで、本市の「まちづくり」と「ものづくり」が連動するとともに、その様子を子どもたちが見て、「まち」に関わることに興味を持ち、持続的に人材も育つ環境を構築することを目指しています。

集市街地の解消と並行した鉄道駅前の再整備を進めています。まず、京阪古川橋駅北側は、図書館と文化会館を合わせた生涯学習複合施設の建設や、民間事業者による沿線最高層のタワーマンション建設が予定されています。また、南伸される大阪モノレールには大型商業施設の開発に合わせた新駅整備のほか、府営住宅約4000戸を10年かけ市へ移管、区画整理事業、延焼遮断帯整備など、さまざまなまちづくりにも取り組んでいます。

辺地域では、まちの価値をあげていくためエリアリノベーションに取り組みながら、昭和48年に建設された市営住宅と大規模店舗などからなる門真プラザの再整備の検討を進めています。

ものづくりdeまちづくり

このエリアリノベーションの取り組みは、まちづくり分野と産業界が連携し、公民連携まちづくりのリードプロジェクトとして、令和2年度から始まりました。地元企業や商店などの協力を得て、本市のものづくり、文化、食の魅力を駅前広場で市内外の人々に伝える、また、駅前の「未来の風景」を仮想的につくり、エリアへの期待や価値を高めるきっかけをつくりながら、暮らしの場といった「地」の再生だけでなく、ものづくり産業などの「業」の再生を両輪で行うことで、本市の「まちづくり」と「ものづくり」が連動するとともに、その様子を子どもたちが見て、「まち」に関わることに興味を持ち、持続的に人材も育つ環境を構築することを目指しています。

行財政改善の取り組み

これらまちづくりに投資するためには、財政の健全化が重要であるため、「門真市健全な財政に関する条例」の制定、財政調整基金を繰り入れない収支均衡予算の継続、平成18年度に58億円あった国民健康保険事業特別会計の累積赤字を令和2年度で解消や上下水道の料金改定、将来的な財政負担の縮減および安定的なごみ処理体制の確保を図るための大阪環境施設組合への加入など、行財政改善に

プロフィール



門真市長
宮本一孝

- ◆ 面積 12.3 km²
 - ◆ 人口 11万8939人
 - ◆ 世帯数 6万3017世帯
- 〔将来都市像〕「人情味あふれる！笑いのたえないまち 門真」
- 〔まちの特徴〕交通利便性に優れ、誰にとっても暮らしやすいまち



- 〔特産品〕門真れんこん、家電製品
- 〔観光〕パナソニックミュージアム、海洋堂ホビーランド、三島神社の薫蓋クス、砂子水路の桜並木
- 〔イベント〕ふるさと門真まつり、ラブリーフエスタ、Eat Eat Kadoma、ラブリータウン古川橋イルミネーション

協働・共創で飛躍する門真へ

も取り組んできました。

これまでの取り組みで、国勢調査において、本市における急激な人口減少は緩やかになっています。今後も教育環境の向上と良質な住環境整備を継続し、民間企業などとの共創にも取り組むことでさらに都市魅力を高め、年齢層のバランスが取れたまちを実現するため、全力を挙げて市政を運営していきたいと思えます。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「市民が主役」
誰一人取り残さないまちづくり

志あふれるまち

志布志の地名は、天智天皇遷幸の伝説で「天皇に布を献上した妻女の優しい心にならない、召し使いの女性もまた布を献上したところ、天皇は大変感激され、『上下より布を志す誠にこれは上下の志布志である』といわれて、高濱の郷中全て志布志と呼ぶようになった」と伝えられています。

「ひと」「まち」「みなと」
「ぶぶ志ぶ志」

志布志市には、温暖な気候と豊かな自然、歴史・文化に恵まれた風土の中で、さまざまな世代の人々がつながり、お互いに尊重し合い、思いやりや支え合いの心を持ち、このまちに誇りと愛着を持って自分らしく生き生きと暮ら

す「ひと」がいます。

また、先人が築いた歴史や文化を引き継ぎ、「高い目標や夢」と「慈愛の精神」を持ち、市民一人一人がそれぞれの役割を担い、行動を起こす活気に満ちた「まち」があり、暮らしに潤いと安らぎを与え続けてくれる「ふるさと」があります。

さらに、高速道路網や志布志港（みなと）の国際バルク戦略港湾としての整備が進んでいることから、これらを最大限活用することで南九州の物流拠点として発展していくことが可能となります。

本市の財産ともいうべき「ひと」「まち」「みなと」「ふるさと」を次の世代に引き継いでいくためにも、直面するさまざまな課題にひるむことなく、積極果敢な市政運営に挑戦しています。

南九州の物流拠点として

平安時代、志布志地域を流れる「前川」の河口部は、国内最大の荘園「島津荘」の水門（みなと）としての役割を果たしていました。

志布志の地名が文献上に初めて現れるのは、鎌倉末期の1316年、宝満寺再興の際「志布志津の一角を宝満寺に寄進する」という文書に見ることができ、津とは港のことであり、本市は昔から港町として発展してきました。

現在の志布志港は、物流拠点港湾かつ九州唯一の国際バルク戦略港湾に指定され、東京・大阪・名古屋・沖縄などを結ぶ内貿貨物、台湾・韓国・中国・神戸港などとの間に就航しているコンテナ貨物、穀物など配合飼料の原料を輸入している外貿バルク貨物、近年輸出入



志布志港全景

が飛躍的に伸びている原木などを取り扱い、南九州地域における国内・国際物流拠点としての役割を果たしています。

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、志布志港の全体取扱貨物量の約5割を占め、志布志と関西地域を結ぶ海の大動脈であるフェリー「さんふらわあ」の利用者が激減し、市内観光関連などにも影響が及びました。そこで、旅客や乗用車利用の増加対策として「さんふらわあ」のPR活動、イベン



通山（とおりやま）地区コミュニティ協議会によるウミガメ産卵場所の海岸清掃活動

トをはじめ、「さんふらわあ」を利用する10人以上の団体や市内中学校・高校の修学旅行への助成などに取り組み、また、感染拡大の状況を踏まえた上で、「さんふらわあ」利用者に対して、期間限定の運賃割引キャンペーンを実施し、利用促進を図っています。

これからの地域のかたち

多くの自治体さまと同様に、本市でも少子高齢化、人口減少が急激に進んでおり、自治会（町内会）では役員のなり手不足や、加入率の低下、地域活動への参加者の減

少などの課題を抱えています。また、生活スタイルの変化や働き方の多様化などを背景に、一人一人の価値観が許容される社会を迎えています。

これまでは「行政主導によるまちづくり」を進めながら、行政サービスで地域の課題をカバーしてきましたが、人口減少による税収減や少子高齢化による社会保障費の増大に伴い、今後は、市と地域の皆さまとで、それぞれの地域の特性や課題を共有した上で、役割を分担しながら課題解決に当たる「協働による地域づくり」への転換が必要となっています。そのため、校区公民館、自治会、学校、企業など地域内のさまざまな団体



潤ヶ野（うるがの）地区コミュニティ協議会が整備したキャンプ場

と地域住民の皆さまがさらに連携して、地域の課題や目標について話し合い、協力しながら活動する場として「地域コミュニティ協議会」の設立を進めています。具体的には、それぞれ活動している組織に「地域コミュニティ協議会」という、おおむね小学校校区の範囲の「傘」をかけ、その中でお互いに連携・協力し、地域の皆さまが役割を持つて活動できる場を設け

プロフィール

- ◆ 面積 290.3 km²
- ◆ 人口 2万9861人
- ◆ 世帯数 1万5240世帯

〔将来都市像〕 未来へ躍動する創造都市 志布志 「さらに輝く ひと・まち・みなと・ふるさとを指して」

〔まちの特徴〕 国内有数の農畜産物を生産し、志布志港から世界とつながる志（こころざし）あふれるまち

〔市町村合併〕 平成18年1月1日、松山町、志布志町、有明町が合併



志布志市長
下平晴行



〔特産品〕 黒牛、黒豚、ウナギ、ちりめん、茶、サツマイモ、ピーマン、イチゴ、芋焼酎

〔観光〕 日本遺産「志布志麓」、ダグリ岬遊園地、ダグリ海水浴場、蓬の郷親水公園（普現堂湧水源）、野井倉開田コスモスロード

〔イベント〕 お釈迦まつり、志布志みなとまつり、大隅の國やっちく松山藩秋の陣まつり

ています。令和3年度に3地区の「地域コミュニティ協議会」が設立され、特色ある活動がスタートし、さらに5地区の組織化に向けた準備を進めており、令和5年度末までに市内全域で地域コミュニティ協議会を立ち上げるため、人材面・財政面・施設面など、さまざまな角度でサポートしながら組織化を進めてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。